

令和5年度 第6回 朝日丘地域会議 会議録

■日 時 令和5年9月14日(木) 午後6時30分～8時15分

■場 所 朝日丘交流館 2階 21会議室

■出席者 < 委員 > 梅村 芳広 川上 健児 北垣 啓子
北村 親樹 佐藤 貢 塩谷 耕一
鈴木 宏昌 成瀬 和美 縄村 恵子
日高 守 矢頭 伸子 山本 千工子
森波 悟
< 市長 > 太田 稔彦
< 関係職員 > 辻 邦恵(企画政策部長) 中川 さゆり(自治推進室長)
野依 真人(企画課長) 花田 潤治(都市計画課長)
< 事務局 > 岡本 裕之(地域支援課長) 松下 誠(地域支援課副課長)
田嶋 優俊(地域支援課担当長) 吉村 亜美(地域支援課主事)

■欠席者 < 委員 > 大岩 高也 永山 哲

■次 第

- 1 開会、会長あいさつ
- 2 市長あいさつ
- 3 諮問について
 - (1) 諮問書の授受
 - (2) 諮問内容の説明
 - (3) 質疑応答及び意見交換
- 4 答申について
 - (1) 答申に向けた今後の流れについて
- 5 その他
 - (1) 令和6年度以降の地域会議会長・副会長の選任について
 - (2) 委員の再任意向確認について
- 6 閉会、副会長あいさつ

■議 事(要約)

3 諮問について

企画課及び都市計画課から諮問内容に関する説明を行った。

その後、市長との質疑応答及び意見交換を行った。内容は別紙のとおり。

4 答申について

事務局から9月28日(木)までに「意見シート」を提出するよう依頼した。

※対象：全委員

5 その他

(2) 委員の再任意向確認について

事務局から10月13日(金)までに「意向確認内容」を提出するよう依頼した。

※対象：現在一期目の委員12名

(別紙) 市長との意見交換

発言者	内容
委員	昔から居住している人は隣近所のつながりが強いが、転入してきた人は地域の行事に参加する程度で、つながりが強いとは言えない。住民それぞれが持つ得意なことを地域に活かされるような交流ができれば、つながりが強まると思う。今後地域のつながりについて、どのように考えるか。
市長	第9次豊田市総合計画(案)のミライ構想の方向性「まちづくりの基本的な考え方」にあるとおり、①見方 ②思考 ③行動 を変えることを意識しなければならない。人口が減っていく中、これまでのように隣近所の人々が自然につながるといった認識を変え、別のコミュニティ形成が必要では。また、高齢化・人口減少の問題は、地域社会づくりが重要となる。健康寿命を延ばし、長く活躍してもらうには一人一役の社会が大事。柔軟な発想をもって新しい仕組みを作っていくと良い。
委員	「持続可能な」という言葉をよく聞かすが、豊田市が力を入れたいことは何か。
市長	色々あるが、今の地域での暮らしを維持すること。このために考えるべき広域な課題は、環境(カーボンニュートラル)。身近な課題は、空き家対策。
委員	豊田安城自転車道。途中鴛鴦のつながっていない部分をつないでほしい。
市長	安全面・金銭面から困難。道路・交通社会は、強者が弱者を守る、という意識を広めたい。自動車>自転車>歩行者。例えば、登下校の見守りでは、保護者が子どもたちを守るのではなく、横断歩道では車の運転者と子どもがアイコンタクトをとって安全に渡る(止まってくれてありがとう運動)。
委員	横断歩道で、歩行者が青点滅でも渡り、渋滞発生の原因になっている。学校教育などで指導するのはどうか。
市長	学校教育よりも効果があるのは、地域の人々が注意してくれること。「歩行者は青信号点滅では止まれ、運転者は黄色信号では止まれ」というような運動を朝日丘地域でやるのはどうか。この地域から他地域に広まるととても良い。
委員	第8次豊田市総合計画の基本施策 VII都市整備 2交通について。朝日丘地域でも公共交通の利便性が課題という意見があるが、どのように考えているか。
市長	まず前提として豊田市は、公共交通の人口カバー率(駅から1km以内・バス停から500m以内)は90.5%という高い数値である。にもかかわらず、利便性が悪いという声はよく聞く。それは、どうしても車と比較してしまうため。結局、免許返納後の高齢者等は、ドアtoドアを求めているので、バス路線の改善ではなく、住民共助の仕組みを考えていく必要がある。
委員	第9次豊田市総合計画(案)のミライ実現戦略2030の方向性の中で、横断的な目標に「こども」がある。具体的にどのようなことか。
市長	今のこどもたちのこれからを考えるという視点を持つこと。数十年後の世代が困らないように、地域コミュニティ・ハード整備・環境・教育などを進めていく。合わせて、今のこどもたちが豊田市に住み続けるには愛着・誇りを持っていないと続かない。よって、「こども」と「愛着・誇り」を重視する。
委員	旧市内に昔から住んでいる人・合併して豊田市民になった人・外から転入した人が、分離せず、融合すると良い。
市長	融合するために何をやるか。3つのトク(特・徳・得)が事業を進めるうえで重要。イベント開催をするにしても、ここを意識。新しい発想も大切。
委員	スポーツクラブは学校と連携している。スポーツ教室に来ていた子が大人になって講師として戻ってきてくれた。このようなつながりが続くと良い。